

【バーチャル リアリティ通知の同期】 IBM

①要約：

このアイデアは、VR 環境に入っている間、現実世界で忘れることのないようにリマインドしてくれるものです。具体的には、VR 空間で思いついたことや必要なアクションを自然言語処理を使って入力し、その情報をデータベースに保存します。その後、現実社会で特定の位置情報が検出された際に、データベースと紐付けられた情報をスマホ上でアラートすることで、忘れ物や行動を補完することができます。

②目的：

このアイデアの目的は、VR 環境から現実社会に戻った際の情報の連続性を確保することです。VR 環境では完全に切り離された体験ができる一方で、現実社会での忘れ物や行動の見落としが起こることがあります。このアイデアを実現することにより、VR と現実社会の間の連続性を保ち、よりスムーズな生活を実現することが目的です。

③新規性：

このアイデアの新規性は、VR 環境での思いつきや必要なアクションを目的地やタイミングに紐付けて現実社会でリマインドする点にあります。従来の VR 技術では、VR 空間内での情報と現実社会の情報をリンクさせることはあまり考慮されていませんでした。このアイデアは、VR 環境と現実社会の情報を連動させることにより、VR 体験と日常生活のつながりを深める新しい方法を提案しています。

④独自性：

このアイデアの独自性は、IBM の特許戦略にも関連しています。IBM は特許数の面でもリーダーであり、選択と集中を行いながら自社の特許を重点的に出願し、ライセンスフィーなどの経済的価値を確保しています。このアイデアは、IBM の特許戦略を活かしながら VR 環境と現実社会の連動を実現することで、独自性を持ったアプローチとなっています。

⑤経済価値：

このアイデアは、VR の普及に伴い需要が高まると予想されるリマインダーアプリケーションに経済的価値を持ちます。現実社会での忘れ物や行動の見落としは誰にとっても困りものであり、このアイデアによってその問題が解決されることで、効率的で快適な生活を実現することができます。また、IBM の特許戦略を活用することにより、特許のライセンスフィーなどの経済的な収益も見込めると考えられます。そのため、このアイデアは経済的価値を持つと言えます。